

第6号では、11月に実施した湯梨浜学園 SSH プログラムについてご紹介いたします。

「科学するところ教室 環境教育 de カードゲーム」

11月20日、中3生・高2生をそれぞれ対象として、倉吉中央ロータリークラブ・鳥取県中部森林組合の方々の協力のもと、「科学するところ教室」を開催しました。

本校では、このイベントを SSH 研究開発課題である「地域の活力を引き出し恒久的に環境保全を実現する科学的人材を育成する教育プログラム」の1つとして位置づけています。

生徒たちは、学習教材カードゲーム「moritomirai」（モリトミライ）に挑戦しながら、森林問題の現状と今後の対策について学びました。



プレイの中で生徒たちは、山の所有者・森林組合・猟師・行政職員・住宅メーカー・学校の先生など10種類の立場に分かれ、仕事や日常生活の中でそれぞれのアクションを通じて、「森の未来」について考えました。

チーム内の生徒（同じ立場）で相談したり、他のチームの生徒（異なる立場）と交渉したりすることにより、森林保全の大切さを学びながら、**問題解決能力**や他者との**交渉力**などさまざまなスキルを身に付けるよい機会となりました。

カード学習を通じて、生徒たちは楽しく**主体的に学習する**ことができました。森林の現状とその持続的活用についてじっくり考え、環境についての自分なりの認識を持つことができるようになり、非常に意義深い貴重な学びの場となりました。

本校では、今後も多様な視点・アプローチから、生徒たちへの環境教育を推進してまいります。



「moritomirai」（モリトミライ）運営事務局

山梨日日新聞社／(株)プロジェクトデザイン ホームページ



「高校2年SSH日本の森林環境保全プロジェクト In 屋久島」



11月22日からの3日間、高校2年SSHプログラムである「森林環境保全プロジェクト In 屋久島」が実施され、世界自然遺産にも登録されている屋久島を訪問し、現地での研修を行いました。このプロジェクトは、本校が掲げる「環境保全を担う科学的人材の育成」の中核となるもので、県内の海洋、森林プロジェクトを基礎として、国内の海洋と森林保全について、実践的なスキルを育成するために実施しました。

1日目の研修では、管理された国有林にて、森林の公益的機能の維持・向上に向けた取り組みについて林野庁九州森林管理局の方より説明を受け、サル・シカのフン、足跡、食痕、わなについて学び、鳥取県との違いについても理解を深めました。



2日目の研修では、世界自然遺産エリア〔西部林道〕において野生動物の生態調査と衛星利用測位システム（GPS）を用いたの**追跡調査実習**を行いました。屋久島がもつ地質、気候の特性と植生、野生動物の特徴を結び付けて理解を深めました。世界自然遺産エリアでは、植物に加えて野生動物も保護されており、自然の中での固有種であるヤクシカ、ヤクシマザルなどの採食行動や毛づくろい行動などを間近に観察することができました。個体数の増加によって**希少植物への被害**が深刻化している状況を把握しました。



3日目は、映画「もののけ姫」の舞台とされる白谷雲水峡での研修となりました。世界自然遺産エリアとは異なり、原始的な照葉樹林の地表はシダや苔に覆われていました。また、狩猟圧を上げ人の手で里山を守ることにより、**管理有害鳥獣の減衰**が見られることが理解できました。併せて、生物基礎で学習したバイオームの垂直分布についても理解度を高めることができました。

生徒からは、「この研修によって、屋久島がもつ特殊な環境が、特異な生態系と優れた自然景観をつくりだすこと。野生動物の保護の大切さと難しさを改めて知ることができた。」という感想がありました。本プロジェクトにより、生徒の環境保全への意識の高まったことを確信しています。

本プロジェクトをサポートしてくださいました多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

